

資料2 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」 質問項目

I. 児童生徒の困難の状況

<行動面（「不注意」「多動性 - 衝動性」）>

（0：ない、もしくはほとんどない、1：ときどきある、2：しばしばある、3：非常にしばしばある、の4段階で回答）

- ・ 学業において、綿密に注意することができない、または不注意な間違いをする
- ・ 手足をそわそわと動かし、またはいすの上でもじもじする
- ・ 課題または遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい
- ・ 教室や、その他、座っていることを要求される状況で席を離れる
- ・ 直接話しかけられたときに聞いてないように見える
- ・ 不適切な状況で、余計に走り回ったり高い所へ上ったりする
- ・ 指示に従えず、課題や任務をやり遂げることができない
- ・ 静かに遊んだり余暇活動につくことができない
- ・ 課題や活動を順序だてることが難しい
- ・ 「じっとしていない」、またはまるで「エンジンで動かされているように」行動する
- ・ （学業や宿題のような）精神的努力の持続を要する課題を避ける
- ・ しゃべりすぎる
- ・ 課題や活動に必要なものをなくしてしまう
- ・ 質問が終わる前に出し抜けに答え始めてしまう
- ・ 気が散りやすい
- ・ 順番を待つことが難しい
- ・ 日々の活動で忘れっぽい
- ・ 他人を妨害したり、邪魔をする

<行動面（「対人関係やこだわり等」）>

（同じ学年の児童生徒と比べて、特に目立つかどうかで考え、0：いいえ、1：多少、2：はい、の3段階で回答）

- ・ 大人びている。ませている
- ・ みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている（例：カレンダー博士）
- ・ 他の子供は興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている
- ・ 特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない
- ・ 含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある

- ・会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある
- ・言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る
- ・独特な声で話すことがある
- ・誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す（例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ）
- ・とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある
- ・いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない
- ・共感性が乏しい
- ・周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言う
- ・独特な目つきをすることがある
- ・友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない
- ・友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる
- ・仲の良い友人がいない
- ・常識が乏しい
- ・球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない
- ・動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある
- ・意図的でなく、顔や体を動かすことがある
- ・ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある
- ・自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる
- ・特定の物に執着がある
- ・他の子供たちから、いじめられることがある
- ・独特な表情をしていることがある
- ・独特な姿勢をしていることがある

2023年6月13日 参議院文教科学委員会 れいわ新選組：船後靖彦

出典：「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
別添資料（令和4年12月13日、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）より、船後事務所作成